

学校評価アンケート結果報告

平成 27 年 1 月
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けております。更なる教育の環境整備と質的向上、ひいては教育成果の向上のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果を確認するとともに、更なる改善に向けた課題形成を図る機会として本年度も学校評価アンケートを実施しました。集計結果に分析を加え、学校改革・教育改善の進行状況をお伝えすべく本書面をまとめました。ご高覧のうえ、ご意見等を頂戴できれば幸いです。

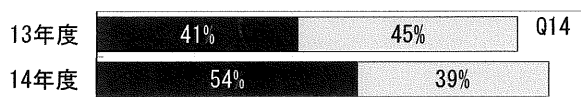
学校長 岩本信久

凡例と集計方法について

凡例：■ そう思う □ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りが無い場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。今後も引き続き、保護者の皆様に十分なご判断をいただけるよう情報発信の充実に努めてまいります。

大阪高校に入学させて良かった 93%



「大阪高校に入学させて良かった」とのお答えを、保護者の 93% から頂戴いたしました。たいへん有り難いことと、改めて感謝を申し上げます。

昨年度に比べて 7 ポイントという大きな上昇です。満足度が大きく向上したのは、後述のように、過年度を大きく上回る評価を得た「生活習慣」「行動選択」「共存資質」「自律学習」といった“好ましい資質の獲得”が進んでいる様子を、ご家庭でのお子様の姿を通じて感じ取っていただけたためと拝察いたします。今後もなお、ご家庭との連携を密にとりながらお預かりした大切な生徒一人ひとりの成長に、学校として責任を果たしていく所存です。

好ましい資質の獲得へ

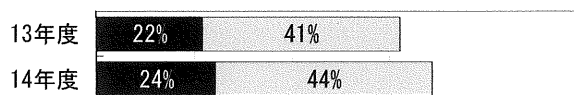
Q お子様は、高校生にふさわしい規律ある生活を送れるようになりましたか。



肯定的な回答が、昨年度と比べて 8 ポイント増えました。今年の特徴は、1 年生のうちから高評価をい

ただけたことにあります。入学当初から重点的かつ継続的に行ってきた、学校が一丸となった指導に加え、ご家庭からのご支援・ご指導があってこそその成果であると考えます。

Q お子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。



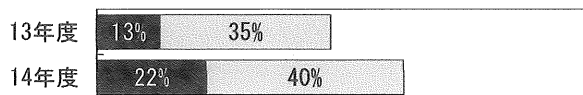
昨年度を上回る数値ですが、学校としてはまだ改善途上と考えております。3 年生に限れば、80% を超える保護者から肯定的な回答を頂きましたが、もっと早い時期から「目的に照らしてなすべきことを考えられる」ように導く必要を強く感じております。かつてないほどの速さで変化する社会で、主体的に情報を集め、その情報に振り回されることなく自ら考えていくためのスキル、選択した行動を着実に遂行できる力を、しっかりと身につけられる学校でありたいと考えます。

Q お子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。



「共生」は、現代を生き抜くために欠かせない資質です。未知の課題に対し、意見の異なる相手と協働しながら解を導き出していくことが、今後ますます重要になります。肯定的な回答は 86% に達しておりますが、これをさらに引き上げるとともに、「どちらかと言えば」という、但し書きのつかない肯定を頂戴できるよう、全校を挙げて取り組んで参ります。

Q お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。



昨年度を上回ることではできましたが、いまだ改善の余地は大きく残されています。肯定的な回答が占める割合が3年生でも74%に止まっていることを真摯に受け止め、日々の授業を通した「学習方策の獲得」と「学習習慣の形成」を図ってまいります。昨年末には授業評価アンケートの結果を踏まえた、授業改善の研修会を行いました。生徒が自ら主体的に、且つ継続的に学びに取り組んでいける教科学習指導の実現にご期待をいただきたく存じます。

後述の通り、生徒が意欲や目標をもって学校に進んで通う姿勢を示す対象として、「クラスでの友人とのふれあい」を選ぶ回答がやや減る一方、対照的に「進路目標実現への接近」や「教科学習」を挙げる回答が増加しつつあります。「あったかい学校」という従来から大高が持つ良いイメージはしっかりと維持しつつ、様々な進路希望に対して、その実現を後押しできる学校であらねばならないと考えます。

これらの実現に向けて、昨年度から「進路実現を乗り越えた学習」「興味関心を深め、自学自習を楽しむ学習」「社会的・職業的に自立するための学習」への本格的な取り組みが始まっております。保護者会や各種通信、学校ホームページなどの情報にも、引き続きご注目をいただければ幸いです。

高まる期待のさらに一歩先を行く、 学習指導と進路指導の実現に向けて

今後のさらなる充実を期待する項目として、「学習指導や学力向上」と「進路指導や就職支援」をお選びになった回答はそれぞれ70%、69%に達しました。

本校では、時代の変化を見据えた新たな教育目標「未来へ、世界へひらく自己の確立」の実現に向けて、

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る
- ②進路観を掘り起こし、希望進路の実現を図る

という2つの優先課題を掲げ、日々の教育実践に取り組んで参りました。生徒一人ひとりの好ましい

資質の獲得が進む中、学力向上と一人ひとりの進路希望の実現を図り得る学校へ、更なる改善への期待が高まっていることを実感しております。

学習指導と進路指導の現状への評価に昨年度より厳しいお声（否定的なご回答が学習指導で28%、進路指導で18%に達しました）をいただいたことは、学校が進める改善が、保護者の皆様からのご期待に追いつけていないことを物語ります。ご期待の一歩先へ、学校を挙げて改善をさらに加速していきます。

平成32年には大学入試の大変革も控えています。21世紀型学習スキル、新しい時代の学習方策など、学校が解を導き出すべき課題は少なくありません。また、変化のスピードが加速する社会においては従来型の進路指導が用をなさなくなることも予想されます。新しい時代にふさわしい学びの場を作りだすべく、保護者の皆様、地域の皆様のご協力を仰ぐ機会も増えようかと存じます。

部活動と学校行事

部活動と学校行事については、肯定的回答の占める割合がそれぞれ76%、84%という結果でした。



大高においては、部活動は「教室では経験できない異年齢の交流の場」、学校行事は「クラス全体での協働によって目標達成に取り組む場」という位置づけです。教室での学びを補完する重要な教育機会と考えております。コミュニティの中での自己の確立を図る好機として、また、大高文化を創出する柱として、すべての生徒がその機会を存分に活用できる環境と体制の実現を図ってまいります。

安全への取り組み、誠実な対応

生徒の安全を守ることは教育活動以前の学校の責任と考えております。継続して高い評価を頂戴しておりますが、見落としている点はないか、新しい危険が生じていないか、今後も更なる注力をお約束いたします。保護者の方からのご指摘、情報にも迅速かつ的確な対応が取れるよう改善を進めます。

Q 登校・下校時指導や緊急時メール連絡網など、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分ですか。



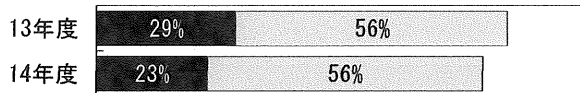
Q 学校は、保護者や地域からの要望・意見に対して誠実に対応していると思いますか。



情報発信には改善の余地が大きい

「広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者にご理解いただき、支持を頂ける学校」の実現を優先課題の一つに据えて、工夫を重ねて参りましたが、改善の余地がまだ大きく残っているようです。学習指導・進路指導と同様に、学校としての取り組みが、保護者の皆様のご期待に追いつけていません。

Q 学校からの連絡文書や懇談会・授業公開などを通じて学校の様子は十分に知ることができますか。



発信する情報の頻度の量を整えるだけでは、ご期待に答えきれないと考えました。保護者の方が必要としている情報を中心に、ともに生徒の成長を支える協働者として基盤を共有していただくための情報発信を、これまで以上に強く心がけて参ります。

Q 保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実を望むことはどれですか。[上位3項目を抜粋]

	※カッコ内は昨年度比較
進路や入試に関する情報	72% (+3)
子供への接し方や行動観察の方法	21% (-2)
模擬試験などの成績状況	20% (+5)

保護者の皆様の関心が、お子様の進路希望実現や一人ひとりが未来を拓いていくことに強く向いてきていることを推し量ることができる結果です。ターゲット模試を設定し、学力を継続的に底上げするとともに、高い意欲を示す生徒への支援も強化しました。成果も着実に表れております。充実の途を辿る

指導システムに、ご安心してお子様の教育を任せていただけるよう、様々な機会・媒体を利用して定期的にしっかりと情報をお伝えして参ります。

育友会活動

大高では、中期的目標に「学び続ける力の育成」「問題解決力の育成」「選択する力の育成」という3つの柱を立てています。これらの確実な達成には、ご家庭、地域の理解とご協力が欠かせません。等身大で評価をされるよう、保護者に対する広報活動の工夫が必要ですが、まずはその起点として本校の保護者会である「育友会」との連携を深めたいと考えます。

今回の学校評価では、育友会活動についてその内容をご存じの保護者が3分の1に止まることわかりました。これまでの情報発信の不足を反省しております。ご協力を頂く前の段階として、まずはしっかりとその活動を伝えて行く必要があるとの認識を新たにいたしました。

いきいきと日々を過ごす意欲の原資

Q お子様は、意欲や目標をもって学校に進んで通う姿勢を示している対象は何ですか。[上位5項目を抜粋]

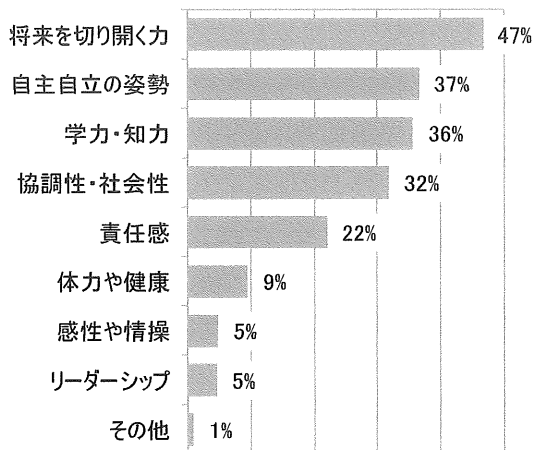
	※カッコ内は昨年度比較
クラスでの友人とのふれあい	52% (-6)
クラブ活動	39% (-1)
進路目標実現	26% (+2)
教科学習	21% (+2)
学校行事	19% (-3)

先にも触れた通り、「進路目標の実現」や「教科学習」に学校生活に向けた意欲の原資を見出す生徒が増える傾向があります。学年が上がるにつれて自分の未来を拓くことに意識と行動が向いてきます。こうした生徒の変化に、遅れることなく、先回りをした学校づくりを推し進めたいと考えます。

とはいえ、創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人格教育」を追及する大高では、ひとつの活動に過度に偏ることを以って「よし」としません。時期に応じた優先すべき対象に、一人ひとりの生徒が最大のエネルギーを投じることができる環境を作り上げ、維持していくことをお約束いたします。

期待に応える学校へ

Q 今後、子どもに獲得させたい資質はどれですか。



最も多くの回答が集まったのは、「将来を切り開く力」です。学年が上がるごとに選択率が徐々に高まる様子（1年45%、2年47%、3年49%）が見られました。科学技術の進歩や社会構造の変化もあって世の中の変化は予想が困難であることは申し上げるまでもありません。様々な予測によれば、雇用の大半が今後数十年の間にロボットに取って代わられるとされています。

こうした時代を生き抜き、自らの将来を切り開くために何よりも大切なのが「選択する力」です。生きることはより良いものを選ぶことの繰り返しであり、大高ではこの力の養成を中期計画の柱の一つに据えて取り組みを進めています。既に「進路ガイダンスの重層化」「進路登録時期の変更」「将来の生き方を見据えた読書レポート」などを、指導計画の中に組み込んで始動しています。

「自主自立の姿勢」と「学力・知力」も、ご期待に応えるべく着実な改善を進めて参ります。前者については、「学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていると思いますか」という問いに対し、肯定的な回答が75%に止まったことを真摯に受け止めております。学習オリエンテーションや各種ガイダンスでの指導に加え、面談での対話を通じた生徒一人ひとりが自らの内面と向き合う場面をしっかりと作っていきます。後者も同様です。外部模試等では成績分布が上昇していますが、さらに一人ひとりの可能性を余すことなく引き出す教科学習指導

の実現を図ります。また各教科の知識・技能の獲得に止まらず、コミュニケーション力、課題発見力、チームでの協働力などの所謂「汎用スキル」や、従来型の教科枠にとらわれない広く深い教養の養成も視座におき、学校行事なども含めた「総合的な学びの場」を作り上げていきます。

Q 本校の特徴として当てはまるものはどれですか。

いきいきと学習や部活に励んでいる学校	41%
一人ひとりを大切にしてくれる学校	36%

選択率の上位2つは「いきいきと学習や部活に励んでいる学校」と「一人ひとりを大切にしてくれる学校」でした。大高の代名詞でもある「あったかい学校」のイメージと一致する結果です。

選択率3位以下は、クラブ活動と学習の両立を図ってくれる学校（18%）、進路指導がしっかりとされている学校（16%）、個性を見出し、伸ばしてくれる学校（14%）、しつけの厳しい学校（11%）、学習面できめ細かく指導してくれる学校（10%）が続き、順位には昨年度までと変化はありませんでした。

一方で、選択率が極端に低かったのは「保護者と教員の連携がしっかりした学校」と「自立心を養ってくれる学校」の2つです。

前者については、保護者の皆様の負担を過剰なものにしないことを旨としつつ、育友会活動の一層の充実を図っていく所存です。後者については、前述した通り、学校に大きな期待が向けられている事柄です。向けられた期待と現状での評価との間には、まだ埋めるべき溝が大きく横たわっていると考えます。大高が考える「自立心」「自主自立の姿勢」とは何かを、明確に定義し直すことから、次のステージに向けた着実な一歩を踏み出して参ります。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当: 副校長 岡本進